



みらいつうしん

2月号

2024年2月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子

鬼は外、福は内

「鬼は外！福は内！」厄を取り払い福を呼び込む節分の時期が近づいてきました。幼児組は、鬼のお面を作って、豆まきを楽しみにしています。節分の行事は、怖い鬼が来るから苦手とを感じる子がいますが、泣くことで身体の中の厄が出るから良いとされ、地方によっては、わざと泣かせるところもあります。こども園では、怖い体験ではなく、豆をまく楽しさを体験します。節分の豆は『魔滅』の言葉からきているとのことですので、豆まきをして、世の中の不安や各自の厄を払ってみたいはいかがですか…。皆さんに沢山の福がやって来ますように。また、暦の上では節分を過ぎると、「暖かい春が訪れる」といいますが、今年は、寒波の影響で大雪に見舞われ立ち往生している地域が目立ちます。震災に合った石川県能登半島地区も大雪が降り、さらに苦しい生活が続いています。川崎市でも、一桁の温度の日もあり、寒さの厳しさから体調を崩している園児もいます。保護者の皆様に置かれましても十分ご自愛ください。

さて、子ども達の様子を見ていますと、どんな状況においても、日々成長を見せる姿に頼もしさを感じます。にじ組さんは、小学校就学に対する意識がより高まり、ランドセルや机、どこの小学校へ行くのかなどの共通の話題に花が咲き、仲間意識も強くなっています。そら組さんは、もうすぐににじ組さんになるという嬉しさから、積極的に物事を理解し行動する姿を垣間見ることがあります。ほし組さんも伸び伸びと生活を楽しんでいる中にも約束やルールが分かってきて、友達同士声をかけ合う姿も見られ、ひとつのことに集中する時間が長くなってきました。乳児クラスについても、動きが活発になり、ことばや出来ることが増えたことから、人に伝える喜びを感じて、とても表情が豊かになっています。一人一人の成長が身近に感じ取られ、より愛しさを覚えます。

先日、避難訓練が行われ、地震が起こり給食室から火が出たという想定で、子ども達全員が、園庭に避難しました。今回で訓練も10回目ということと今年度の石川県の大地震について理解している園児が多いことから、いつになく真剣な様子を感じられました。防災用語「おかしも」を子ども達に伝えると、「押さない、駆けない、しゃべらない、戻らない」をすらすらと声が返ってきて、訓練の成果を感じました。この防災用語は、1995年に起きた阪神・淡路大震災の直後に、小学生向けに作られたもので、分かりやすいと全国に広まり、乳幼児施設にも使われるようになりました。今では、「ち…近寄らない」「す…素早く動く」「き…話をよく聞く」という用語も加えて子ども達に促しているところもあり、災害時の対策が強化されています。川崎市地区にもいつ大きな地震が起きるか分かりません。災害時の対応がしっかり行えるよう、これからも子ども達と一緒に「命を守る行動」を身につけていきたいと思えます。

今年度も、あと2ヶ月余りとなりました。暖かい春の訪れはもう少し後になりそうですが、子ども達が安心して楽しく過ごせるよう努めて参ります。



3人で挑戦！1, 2, 3回跳べた！



まわった！きれいだね

